

●イスラーム系一〇民族が混住する中国西北部。その地をモンゴルの視点で見つめながら、現在の複雑な民族構図の成り立ちを探訪、ユニークな歴史人類学の旅。

モンゴルとイスラーム的中国

——民族形成をたどる歴史人類学紀行

静岡大学 楊海英著

本書は、現代中国の内モンゴル自治区西部、寧夏回族自治区、甘肅省、それに青海省における三年間にわたるフィールドワークの成果をまとめたものである。中国ではこれらの地域を「中国西北部」と呼ぶ。これらの地域の面積は約一五五万平方キロで、そこには四千万人近い諸民族が住んでいる。現代中国のイスラームを信仰する十の民族も、すべてこの地域に住んでおり、ムスリムたちは間違いなく西北中国の主人公となっている。そのため、私はこのような「中国西北地域」を「イスラーム的中国」と呼びたい。……

西欧列強の進入に伴い、漠北やチベット高原に住む満洲人の同盟者のモンゴル人やチベット人たちは独立を宣言したが、対立軸の両端を担っていた「イスラームと漢」が、代わりに台頭してきた。「イスラームと漢」は、時には対立し、時には同盟を組んで、往昔の満洲人の盟友たちを抑え、中華民国に留めた。「イスラームと漢」がモンゴル人やチベット人を抑えた結果、自立を逸してしまった諸集団は、中華人民共和国の一員として、与えられた最小限の自治に満足せねばならなくなったのである。

世界は今、大国主導のグローバリゼーションと「反テロ」に巻き込まれている。マイノリティにとっては、少なくとも現時点ではどちらも決してプラスにはなっていない。グローバリゼーションは、豊かになる夢をちらつかしながらも、彼らの地から産出する資源を吸い上げていく。「反テロ」は、多少の自己主張をすべてテロと拡大解釈する危険性を伴っている。われわれ少数民族にとっては、とにかく、住みにくい世になっている。

中国西北部のどんな僻地に行っても、必ず、日本のNGOやNPO団体の活動が見られるようになった。日本にとっても、決して遠い世界ではなくなってきた。日本の地の人間が何を信仰し、互いにどんな関係で結ばれ、そして相互をどのように認識しているかを考えるのに、本書が役立つことを願っている。

まえがき

- 一 モンゴルの視点から見たイスラーム研究
民族間関係とモンゴル内部の多様性
- 二 モンゴルにとっての「西北ムスリム大反乱」
誰のための歴史か／民族政策を織り出すための歴史研究／モンゴル語年代記の表象／記憶と記録の回民反乱／モンゴルと回族、その異なる歴史観
- 三 モンゴル人ムスリムの今昔
生き方が語るモンゴル人ムスリムの歴史／ホトン人のイスラーム／イスラームと「民族」の間
- 四 寧夏、イスラームの大海原に残るモンゴルの歴史
ムスリム世界で元朝の遺跡を訪ねる／赤い星と西北の弦月／乾燥大地に根付いた神秘主義／漢人が創出する負のイメージ／遊牧と塩の道の現在
- 五 青海、民族形成の道を行く
青海のモンゴル／核の汚染地域に暮らすモンゴル族ムスリム／サラール人の神秘主義教団／チベット人ムスリム／保安族の元の故郷／民族が創られる諸要素
- 六 保安族のスーフィズム
イスラームの黄土高原／保安族の新天地／語りつがれる保安族の歴史／保安族社会内のスーフィー教団
- 七 東郷族社会のイスラーム
東郷人の大地／東郷族の胡門門宦／東郷族社会内の他のスーフィー教団／東郷人社会からスタートした新教イフワン／少数民族対策とマイノリティ同士の視線
- 八 モンゴル系ムスリムたちの脈動
「科学」とアイデンティティに揺れる／ネイティブ人類学者と少数民族研究

あとがき・索引

体裁

- ・四六・上製カバー
- ・三六〇頁

税込み定価

- ・二六二五円
- (本体二五〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14-9
電話〇三(三八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	一五〇〇円
部	

地方出版

楊海英著

モンゴルとイスラーム的中国

民族形成をたどる歴史人類学紀行

ISBN978-4-89489-116-6 C1039 ¥2500E

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所
お電話

月 日